

次期方針について

① 前計画(台東区観光振興計画(平成28年))の振り返り

外国人観光客のさらなる増加と東京2020大会開催を背景とし、Wi-Fi 整備や多言語対応等の国際的な受入基盤の標準化を推進した。この時期に、観光客の過密化やマナー問題が顕在化し、観光バス駐車対策やマナー啓発を緊急課題として位置づけた。

【前計画の骨格】目標：本物に会えるまち／理念：観光の持続的発展

基本方針：

1. 台東区が有する多面的な魅力要素に光を当てる
2. 区民の生活向上を意識した観光の基盤を実現する
3. 地域に対する愛着や誇りといった意識の醸成を図る
4. 多様な来訪者に対して台東区の魅力を的確にアピールする
5. 地域が一体となって観光に取り組む

「台東区の観光復活に向けた方針」(令和4年)策定

コロナ禍の逆境を乗り越え、持続可能な発展を実現するため、「稼ぐ力の強化」を掲げ、高付加価値層の誘致やMICEの推進による消費額の拡大に加え、区民生活との調和を図る基盤整備や、誘客の分散化による「量から質への転換」を推進。

目標：本物に会えるまち／理念：観光の持続的発展

基本方針：

1. 区内観光事業者の「稼ぐ力」を高める
2. 区民の生活向上を意識した観光基盤づくり
3. 誘客の分散化と量の観光から質の観光への転換

計画の検証

- ✓ 観光客数や観光消費額は目標を大きく上回り、満足度や再来訪希望も高い水準でほぼ横ばい・微増となったものの、区民の意識については目標を大きく下回った。
- ✓ 受入環境整備や多様な来訪者への対応等は進んだものの、想定を上回る急激なインバウンドの回復等により、観光と生活環境の摩擦が顕在化

課題①：区民の生活環境の悪化と、観光に対する「受容度」の急落

- ✓ 歩道・交通の混雑、国際基準と異なるごみ問題、違法民泊やマナー違反といった生活環境の悪化により、区民への負荷が増大。
- ✓ 結果、観光に好意的な区民の割合が、区民意識調査(隔年実施)における前回比で14ポイント減少し、方針策定のための実施調査において、プラス効果を感じる区民は42.9%に留まった。

課題②：観光恩恵の偏重と、地域産業の構造的疲弊

- ✓ 観光客数・消費額はV字回復したものの、その恩恵は一部の地域や特定業種に偏重しており、区内全域へ波及していない。
- ✓ 地場産業や商店街を含む全産業において、深刻な人手不足や後継者難。
- ✓ 原材料・エネルギー等のコスト高騰、コロナ禍の借入返済等により、収益性が悪化。

課題③：インバウンド偏重による特定箇所への集中とターゲットのミスマッチ

- ✓ インバウンドの急回復により局所的な混雑が発生。
- ✓ 一方、当区の観光の基盤であり、コア客層である「国内旅行者」への対応が手薄。
- ✓ 台東区が持つ奥深い歴史・文化・ものづくりに関するコンテンツを十分届けられていない。また、それらに価値を見出す「知的的好奇心層」を取りこめていない。

課題④：持続可能な観光を支える「基盤・推進体制」の欠如

- ✓ 将来的に持続可能な観光推進体制が構築されていない。
- ✓ 交通課題の解決や、コインロッカー不足・行列対策といった受入環境整備は、観光分野単独の施策や啓発活動だけでは解決は難しい。
- ✓ 都市計画・交通対策など他分野との横断的連携、多様な主体(行政・事業者・地域住民等)による協働、DX導入といった「基盤」が十分に機能していない。

✓ 観光客増加による影響は、ある主体にとっては**プラス(+)**になり、別の主体にとって**マイナス(-)**になるケースもある。その結果、課題が多層化・複雑化している。
(以下では住民・事業者、来訪者の軸で整理をしているが、同じ主体の中でも捉え方が異なるため画一的に定義ができる訳ではない)

【参考】主体別の課題

現象	住民(地域)	事業者	来訪者
環境面 (物理的開発、 インフラ整備、 公共空間再編)	【+】生活基盤の近代化、 利便性向上 【-】混雑、騒音、プライバシーの侵害、生活導線の断絶、インフラへの負荷、環境負荷増、景観の変容	【+】高規格な商業施設の形成 【-】過密による物流停滞、周辺環境の悪化	【+】洗練された宿泊施設、安全な滞在環境 【-】待ち時間増大、快適性喪失、開発過多による文化・景観破壊
関係性 (社会規範の変容、地域コミュニティの再編)	【+】流入者との新たな協力関係 【-】住民の転出、社会的絆の侵食、治安の悪化	【+】ビジネスネットワークの構築 【-】地元組織との軋轢、伝統的な商慣習の崩壊	【+】現地文化を通じた深い交流 【-】住民の拒絶による疎外感
経済面 (地価・家賃、物価上昇)	【+】就業機会増、多様なサービスと品質の選択肢 【-】家賃高騰等による居住継続困難、生活コスト増	【+】市場拡大、売上増、投資機会・不動産資産価値の向上 【-】人件費高騰、労働力不足、賃料高騰による地元小規模店の淘汰	【+】多様なサービスと品質の選択肢 【-】旅行コストの増大
情緒面 (真正性の喪失、アイデンティティ変容)	【+】地域ブランドの向上、地域の価値再認識 【-】「場所への愛着」の喪失	【+】地域ブランドの向上 【-】画一化による独自性低下	【+】「本物」に触れる感動 【-】「作られた伝統」への失望、没個性化

観光客急増・観光地化

2 次期方針を検討するにあたって

(1)次期方針期間における主な外部環境の変化

✓ さらなる来訪者を受け入れられる環境づくりが進む

2026(令和8)年	第5次観光立国推進基本計画 (「観光の持続的な発展」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」、「観光と交通・まちづくりとの連携強化」、「新技術の活用・本格展開」) 出国税引上げ／免税制度改正
2027(令和9)年	労基法改正／東京都宿泊税見直し(予定)／技能実習廃止・育成就労制度移行／ふるさと住民登録制度創設(予定)
2028(令和10)年	化石燃料賦課金(カーボンプライシング)導入／八重洲バスターミナル開業(第3期)／日本版ESTA「JESTA」の導入
2029(令和11)年	成田空港年間発着枠拡大(※延期見通し)／新宿駅西口地区開発竣工／築地市場跡地の再開発先行開業(予定)
2030(令和12)年	SDGs(持続可能な開発目標)の最終年

(2) 上位計画における観光関連箇所

台東区 基本構想	基本目標3 活力にあふれ多彩な魅力が輝くまちの実現 文化と産業、そして観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来への創造につなげていく
台東区長期 総合計画 (R5-R10)	活力にあふれ多彩な魅力が輝くまちの実現(観光分野) 施策: 多彩な観光魅力の創出／戦略的なプロモーションの展開／誰もが安心して快適に観光できる環境整備／区民生活と調和する観光の推進

(3) 他地域の観光計画の動向(参考:「近隣の観光振興計画の事例について」を参照)

- ✓ 従来の「量(観光客数)重視」から、「質の向上」(長期滞在、消費額向上等)や「持続可能性」の重視へと転換。また、観光客の定義を見直し、関係人口を重視する例も。
- ✓ 特に観光客の集中・混雑等が課題となっている観光地の計画では、住民生活との調和を重要課題として施策を組み込んでいる。
- ✓ 近隣区では産業(ものづくりや中小企業、商店街等)政策との融合を掲げている
- ✓ 人流データ、マーケティング、スマート観光(来訪者の満足度向上・混雑緩和等)、生産性向上等を実現するためDX化は必須

③ 次期方針の目標像・理念・基本方針

区民、区内事業者、来訪者のいずれもが恩恵を通じて、互いに調和した関係を構築することを目指す。

【前計画】

本物に会えるまち

【目標とする姿(仮)】

三方良し(区民、事業者、来訪者※)

～台東区の実現(住みやすさの向上、産業の発展、伝統・文化の継承)に寄与する観光の実現～

※来訪者: いわゆる観光客のみならず、近隣からのレジャー・買物などで訪れる人も対象とする。
通勤・通学は含めない。

【前計画】

観光の持続的発展

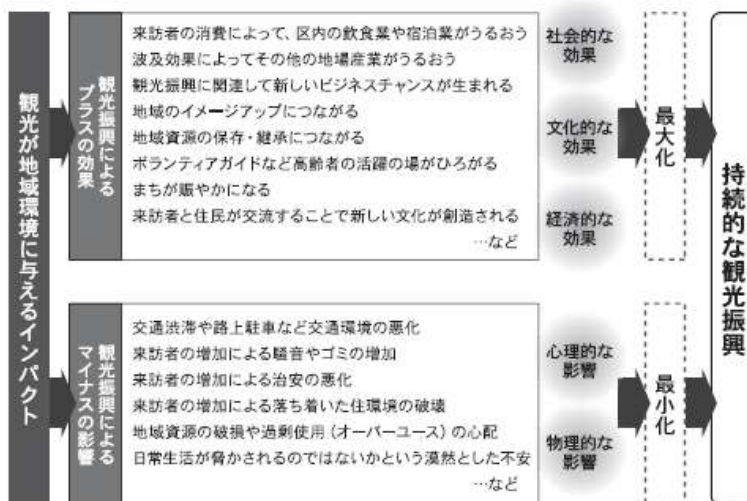
【理念(仮)】

観光の持続的発展

プラスの効果を高めていくだけでなく、マイナスの影響に配慮し、最小限に観光資源や区民の生活環境、生活文化等を保全し、区民生活を向上させ、将来世代にも継承

<参考>

平成28年度台東区観光振興計画で示された考え方



【基本方針(仮)】

【前計画 基本方針】

1. 台東区が有する多面的な魅力要素に光を当てて

2. 区民の生活向上を意識した観光の基盤を実現する

3. 地域に対する愛着や誇りといった意識の醸成を図る

4. 多様な来訪者に対して台東区の魅力を的確にアピールする

5. 地域が一体となって観光に取り組む

【区民】 区民生活と観光との調和

【柱となる施策(例)やキーワード】

- 観光に起因した課題への取り組み(ゴミ・民泊・マナー等)
- 地域の理解を得る取り組み
- 官民一体となった持続可能な観光への取り組み
- 区民の生活向上を意識した観光基盤づくり(受入環境整備)
- 観光に理解を深める学習機会の提供

【区内事業者】 観光地であることを活かした文化・産業の持続的発展と恩恵の循環

【柱となる施策(例)やキーワード】

- 観光の裾野を広げる取り組み
- 事業者を下支えする取り組み
- 「歴史・文化資源」の保全と活用
- 水辺資源の活用

【来訪者】 質の高い観光体験の提供、的確なプロモーション、安全安心な観光地づくり

【柱となる施策(例)やキーワード】

- 責任ある観光・レスポンシブル・ツーリズムの推進(国や都との連携強化)
- 質の高い滞在・買物の促進
- 戦略的なプロモーションの実施
- データに基づいた取組
- 快適な周遊を実現する仕組みづくり(手ぶら観光、配送サービス)
- 多様な資源を活用した関係人口づくり(リピーター・ファンの獲得)
- 街なか回遊の推進(快適な二次交通、ウォーカブルな環境づくり)
- 安全・安心な観光地づくり

【体制/基盤】 持続可能な観光を支える推進体制と基盤構築

【柱となる施策(例)やキーワード】

- 多様な主体(区・事業者・区民等)による協働・推進体制づくり
- まちづくり・交通対策など他分野との分野横断的な連携
- デジタル技術(DX)を活用した受入環境の最適化
- 観光財源(例:観光課題等に活用する基金等)の確保
- 危機管理体制の構築・広域連携(国や都、他自治体)

4 本日、特に議論していただきたい点

「次期方針の事務局案」は議論の出発点であり、方針策定に向けて、特に以下の視点から、ご意見をいただきたい。

(ア)「目標とする姿:三方良し」について

- ◎「良し」とは？(何がどうなれば良い状態であるといえるのか)
- ◎「三方良し」は元々近江商人の言葉。台東区らしい、台東区ならではの表現がないか。

(イ)「理念:観光の持続的発展」について

- ◎台東区にとっての観光の「持続可能」「持続的発展」とは何か。
(まちがどうなれば嬉しいか。もしくはこうなりたくないというイメージはあるか。)

(ウ)「基本方針」について

- ◎基本方針として3つの主体(区民・事業者・来訪者)+体制の整理軸でよいか。
また、それぞれの整理内容でよいか。
- ◎「目標とする姿:三方よし(仮)」を実現していくために、認識しておくべき現状や取り組んでいくべきことはあるか。(前回の推進会議でお出しいただいた内容以外で)